

## 「守ろう精神の輪」を世界へ

下橋中学校三年

千葉叶夏子

私が思う盛岡の良さとは、住む人が自分達の手で愛する盛岡の街の環境や景観を守ろうと努力し、その繋がりをもつと拡げようと言識して活動していることです。

私の母校杜陵小学校では、毎年二月頃に、「鮭の稚魚放流会」という行事があります。

低学年の頃はあまり深く理解せずに参加していましたが、高学年になった秋のある日、昆

沙門橋の下に、かって自分達が中津川に放流して太平洋に旅立った鮭が、四年ぶりに川を遡流して産卵に帰ってきた様子を見つけました。鮭の赤ちゃん達が盛岡の清流中津川をきちんと記憶していて間違えることなく戻ってきたことに感動しました。

盛岡の中心部には清流が流れ、人々はごく自然に街路樹下の草むしりや公園の花壇の整備、ごみ拾いなどのボランティア活動などを行っています。この街で生まれ育った私は、

その光景を当たり前に感じていたことに、ある秋の日に帰ってきた鮭を見て気付き強く反省し、その後は地域の清掃活動などに積極的に参加し、環境保全を意識して暮らすようになります。

自分達で街のお手入れを心がけているからこそ、そこに存在する生き物や自然を愛し、守り続けようとする「守ろう精神」が盛岡にはありますのだと思ひます。

しかし市内各地域や団体による清掃活動などは盛んでも、それを国内外に発信したり、新たな取り組みを生み出す機会がまだ少ないと思ひます。そこで私は次のことを提案します。

盛岡市内在住の海外の方と環境保全について環として参加します。共に活動することでの盛岡が市民主体で清流や美しい景観を守る努力をしていることを世界にアピールする機会になると同時に参加者が母国に帰った時、盛

岡の活動を参考に「守ろう精神の輪」が拡張することが眞の国際交流に繋がると思思います。中学生は、とともに活動した海外の方の母国の環境への取り組みについて情報交換ができ、新たに発想が生まれる可能性にも繋がります。私は世界中で日々起きていることを地球の裏側の問題と捉えず、常に自分の身近なこととして自分の意見を持つことを訓練することにより国際的コミュニケーション力を高めることがができると思います。それには調査能力も求められるので日々、テレマを絞りノートに自分の意見とその根拠を記す練習をします。そしていつか、盛岡と世界の架け橋になります。になりたいです。